

令和7年度第4回松江市公共交通利用促進市民会議
第9回公共交通で暮らしやすい未来を実現するPT 意見概要

○開催日時・場所：2025年12月22日（月）10:00-12:10
松江市役所5階第2常任委員会室

○開会

・会長挨拶

○議題1) 計画関係

- 1) 計画策定にかかるこれまでの経過と今後の進め方
～事務局より説明～
- 2) 地域公共交通計画の一部改定（利便増進事業の指定ほか）
～事務局より説明～
- 3) 松江市地域公共交通利便増進実施計画（案）の策定
～事務局より説明～
- 4) 松江地区乗合バス事業共同運行計画（案）の策定状況
～松江市交通局より説明～

○議題2) 令和8年4月からの運行・サービス施策

～松江市交通局より説明～

(連合島根東部地域協議会_丸山執行委員)

- ・乗合バス事業共同運行計画の13ページ「余剰の充当」について説明をして頂きたい。計画書を見ると共同運行実施時のサービスは、現状より充実した運行となっている。共同運行計画の検討の発端は、乗務員不足による減便や欠便が発生したことを受け、安定的な運行を目指すためであったと理解しているが、この計画では、利用者の利便性は向上するが、事業者側の懸念の解消は難しいのではないか。
- ・運転士は、松江市交通局では充足しているということであったが、一畠バスは不足している状況である。今後、労働時間の上限が更に厳しくなる可能性がある中で、余剰分を他の運行に回すと、懸念を解消できないのではないか。共同運行により生まれた余剰は、余裕分として確保すべきと考えていた。
- ・この計画が今後も持続的に実施できるよう、各事業者で繰り返し確認しながら計画に沿って実施していただきたい。
- ・計画が動き出してからは利用促進が重要である。昨今、観光客のバス利用も増えており、松江城付近のバス停では、どのバスが松江駅に向かうバスなのか分からず、右往左往している状況を散見する。今後、案内等の改善の検討も行っていただきたい。

・総括としては、ようやくここまで来たと感じている。

⇒ (松江市交通局_佐藤課長)

・計画策定の動機はご指摘の通りである。松江市交通局も余裕があるとまでは言えない状況であるが、本計画により、松江市交通局と一畠バスが「あたかも1社」で一緒に考えていく土台ができたことが、大きな前進であると考えている。今後も余剰部分の充当についても市民会議の皆さんに意見もいただきながら進捗管理をしていきたい。

(呉工業高等専門学校_神田教授)

- ・2つの計画について、よくここまでまとまったというのが正直な感想である。
- ・プロジェクトチームの会議が始まった段階で申し上げていたのは、減便やドライバー不足、コロナ禍の影響を受け非常に厳しい状況が続いているなかで、市民の方々からバスに対する信頼を確保することがスタートだった。それに応えるための計画、今後のアクションについてまとめられており、松江市交通局・一畠バスの現場の皆様、また行政の皆様に敬意を表したい。
- ・計画の中身について変えてほしいという点は特になく、国に出す計画書としてはこの内容で問題ないと考えている
- ・今後の進め方として、これまで信頼を失ってしまったという点について、真摯に捉え、今後、市民の方々とコミュニケーションをとっていただきたい。
- ・今後に向けて大きいスローガンを立ててはどうか。「便利にしていきます」「変えていきます」という前向きなメッセージを出し続けていただきたい。
- ・前向きな取組を進めている地域では、過疎地であってもドライバーを確保できている事例もある。前が見えない業界に身を預けることが一番怖いためそれが人材不足の大きな原因である。方向性を明確に示すことが重要である。市民の方々へのアウトリーチをしっかりとっていただきたい。
- ・運賃に関する施策については今後の進展を期待している。広島市中心部では「シティパス」というエリア内乗り放題の定期券があり、データを分析すると、增收・利用者増となった結果が出ている。事業者にとってもプラス、利用者にとっても移動回数が増えており、まちにとっても好循環となっている。
- ・乗り放題にすると減収になるという懸念があるが、実際には增收になっている事例もあるため、松江市においても運賃の在り方の検討・研究の余地がある。
- ・人を動かす運賃設定を行うことによって、例えば医療費が下がるといった行政負担額が減るような副次的な効果があるはずである。公共交通があることでまちにどういう効果を及ぼすことができるのか、収入と支出の話だけで閉じてしまいがちだが、交通をインフラとして捉えたときの公共交通システムの在り方について、次のステップで議論を深めていくべきである。

(広島経済大学_加藤会長)

- ・計画書の成案化については、会長に一任いただければと思っている。今後調整が発生した場合は、会長と事務局とのやり取りを経て、成案とさせていただきたい。

(全員)

- ・了承。

○議題 3) 令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（地域間幹線補助・フィーダー補助・利便計画策定）

～事務局より説明～

(中国運輸局島根運輸支局_斎藤首席運輸企画専門官)

- ・令和 7 年度の補助事業から地域公共交通計画との連動化が実施されており、事業評価として輸送量だけでなく、収支率と公的負担額の記載も必要となった。収支率と公的負担額の目標に対する実績も記載した上で提出していただきたい。

⇒ (広島経済大学_加藤会長)

- ・修正が必要であるが、委員の方への確認の仕方や運輸支局への提出期限はどうか。

⇒ (事務局)

- ・提出期限は 1 月上旬である。事務局で修正し委員の方にメール等で確認していただきたい。

⇒ (広島経済大学_加藤会長)

- ・委員の方にはメール等を確認の上、回答をお願いしたい。

○議題 4) AI デマンドバスの課題と対応策

～事務局より説明～

(広島経済大学_加藤会長)

- ・AI デマンドは、八束町を含めて 4 地区で導入されている。運行は順調に行われているが、さまざまな課題も浮き彫りになっているとのことであった。
- ・来年度から運賃を 200 円から 300 円に改定したいということである。

(西日本旅客鉄道株式会社_森山陰支店地域振興本部課長)

- ・AI デマンドを入れて良かった点はなにか。システム費として年間約 2,000 万円の支出が必要のことだが、費用の妥当性等の評価はどうか。

⇒ (事務局)

- ・定時定路線の運行を行ってきた路線に、AI デマンドを導入したことにより、より細かな移動ニーズに応えることができるようになっている。

⇒ (西日本旅客鉄道株式会社_森山陰支店地域振興本部課長)

- ・デマンド機能としての利用者側のメリットは理解するが、AI を導入したメリットは何か。配車など事業者側のメリットなどその必要性はなにか。

⇒ (事務局)

- ・予約に応じて AI で最適なルートを選定してくれることでの運行の効率化が図られることを期待して導入した。実際には期待していた乗合率に達していないため、十分な効果を発揮できていない状況である。
- ・一方で、LINE での予約を可能としており、今後は利用促進に力をいれていきたいと考えている。

⇒ (西日本旅客鉄道株式会社_森山陰支店地域振興本部課長)

- ・AI の機能を発揮するためには、どの程度の乗合率が必要なのか。

⇒ (事務局)

- ・現状では詳細な検討ができていないが、コスト面における課題が大きい状況である。運転手の負担軽減により、地域への定着を目指して改善していきたい。

(広島経済大学_加藤会長)

- ・AI デマンドを導入したことでの停留所が増え利便性は向上していると考えられる。一方で、利用が進むことを期待したが、現状では、コストに見合う利用には至っていないということであった。
- ・運転手の土地勘があれば、AI が示すルートよりも最適なルートを知っているというケースもある。今後、東出雲では AI によらないデマンド運行を導入するということである。
- ・アドバイザーの松江高専の三谷先生とも引き続き連携しながら進めさせていただきたい。

(呉工業高等専門学校_神田教授)

- ・6 ページ目の経費は、何との比較なのか。

⇒ (事務局)

- ・5 ページ目は、導入前と導入後の比較である。6 ページ目は、市域内で運行する定時定路線と AI デマンドの運行地域の合算や平均を比較したものである。

⇒ (呉工業高等専門学校_神田教授)

- ・ミスリードを起こす可能性があるため、資料への補足が必要である。
- ・AI デマンドの最大の欠点は高額なシステム費である。いろんなシステムがある中で、システムの見直しについても検討の余地がある。
- ・AI デマンドは、定時定路線と比べて、費用面以外の市役所職員の負担が大きいのではないか。

⇒ (事務局)

- ・ご指摘の通り、利用に関する問い合わせや、冬季の運行判断を職員が行っており、負担は増えていると言える。

⇒ (呉工業高等専門学校_神田教授)

- ・コミュニティバスを定時定路線からデマンド運行にすることで、利用者数は増えているよう見えるが、デマンド運行に適応できず利用できなくなる人もいる可能性がある。かえって移動弱者を生み出しかねないため、十分な配慮が必要である。

- ・デマンド運行は、運行側のフットワークが軽くなっているはずである。運行時間帯を早い時間帯や遅い時間帯等、自由度を高めることで、利用促進が進む可能性がある。例えば、庄原市では、夜にタクシーとほぼ同じ金額で運行し採算ラインが見えつつある。

⇒ (事務局)

- ・デマンド運行となったことで、利用できなくなった方がいるという声も聞いている。定時定路線であればバス停に行けば利用できるが、デマンド運行では予約が必要であり、予約するのが難しい方も存在するのは事実である。またアプリの使い勝手の悪さも課題となっている。
- ・利用促進に向けて、地域の皆様と意見交換を行いながら改善していきたい。AI デマンドは、導入したばかりであるため、コスト面も含め検討を進めていきたい。

(松江市教育委員会_原田教育委員)

- ・以前のコミュニティバスは土日も運行していたが、AI デマンドは土日運休であり、不便になったという声があり、アンケート調査でも、土曜日の運行を復活させてほしいと要望が出ているが、課題として触れられていないことが気になっている。
- ・土日の運行があれば、子どもの利用も見込まれる。

⇒ (事務局)

- ・土日の運休については、導入時の地域との協議にて決まったものの、地域からは運行してほしいという要望を受けている。
- ・運行コストや利用状況を考慮しながら、検討していきたい。

(有限会社鹿島タクシー_物部代表取締役社長)

- ・WG に参加しているが、AI デマンド導入の検討の際に、タクシー事業との競合の懸念を示したが、事業者が折れる形で導入が決まり、まずは八束町に実証で 2 台の運行ということで開始された経緯がある。
- ・先ほど、乗合率の話もあったが、あまり乗合利用されていないということで、結局タクシーと同じサービスとなっている。通常タクシーでは境港まで 3,000 円程度かかるところ、AI デマンドでは 200 円で行ける状況となっている。その結果、タクシーの仕事がなくなり、八束町にタクシー車両がいなくなっている。いざ大根島でタクシー予約があれば社長のみが対応しており、断ることもある。
- ・WG において、AI デマンドの導入は立ち止まっていただきたいと伝えたところ、東出雲では AI は使わないデマンド運行の導入となった。AI デマンドの課題として、このような経緯があることも整理していただきたい。

⇒ (広島経済大学_加藤会長)

- ・これまでの経緯や議論なども含めて、課題や方向性を整理し、共有していただきたい。

⇒ (事務局)

- ・東出雲では、事業者からの意見があり、AI によらないデマンド運行を採用することとなつた。状況を見ながら、引き続き検討していきたい。

⇒ (広島経済大学_加藤会長)

- ・運行事業者あっての運行であるため、理解を得ながら進めさせていただきたい。

○議題 5) 公共交通の利用促進にかかる条例策定

～事務局より説明～

(広島経済大学_加藤会長)

- ・条例策定のたたき台（策定時期を含む）が示された。意見や質問等があれば、事務局の方に連絡していただきたい。

○議題 6) 自動運転バス実証実験の実施状況

～事務局より説明～

(広島経済大学_加藤会長)

- ・今年度の実証実験はすでに終了し、実証実験の結果や利用者からの意見、来年度以降のコードマップが示された。意見や質問等があれば、事務局の方に連絡していただきたい。

○議題 7) 第 2 回バス運転体験会＆バス・タクシー就業フェア

～島根県旅客自動車協会より説明～

(広島経済大学_加藤会長)

- ・昨年度に引き続き、第 2 回の就業フェアが 11 月 23 日に開催された報告であった。昨年度は、採用に繋がる実績があったとのことで、今年度も期待している。

○全体のまとめ

- ・副会長挨拶

(公民館長会_三宅副会長)

- ・数年間この会議に出席させていただいているが、よくここまで練り上げられたと、WG の方々にも敬意を表したい。
- ・計画策定は、スタートラインに立った段階であり、これからどうやって進めていくかが重要である。特に運行事業者には、大変な苦労をかけると思うが、これらの内容を推進していくためには財源の確保が不可欠である。
- ・市の財政状況は必ずしも芳しいとは伺っていないが、きちんと財源を確保していくことがこれから重要になる。
- ・条例はあまり制約となることは書かない方がよいのではないか。市の責務として必要な財源を保障していくことを市民の誰もが見てもわかる 3 条程度の精神条例でいい。公共交通はインフラであって、市民も負担するが行政もきちんと対応するという程度の記載で十分である。条例の下部計画としてこれらの計画があり、条例があることにより事務方の予算確保も進めやすくなると考えている。

- ・国からの財源を十分に検討いただくことが必要である。国交省の予算だけでなく、例えば原発の交付金を島根マリンプラザ線などに活用できないかについても検討いただきたい。
 - 特別交付税の活用は政治力であるため、国に対する十分なアプローチが必要もある。
- ⇒ (広島経済大学_加藤会長)
- ・財源確保の重要性、国とのコミュニケーションの重要性、条例制定についてアドバイスをいただいた。

(広島経済大学_加藤会長)

- ・議題1はいただいた意見を踏まえ、2つの計画（利便増進実施計画、共同運行計画）については、国への申請等の手続きを進めていき、実行につなげて参りたい。

○閉会

○傍聴者数 0人

○問い合わせ先

松江市まちづくり部交通政策課公共交通戦略室
TEL:0852-55-5884 メール：kotsu@city.matsue.lg.jp